

一般社団法人 三重県作業療法士会 広報誌

OTみえ

NEWS

No.132

2020.2



2020.3.8、
第31回三重県作業療法士会
詳しくは、本文を…。

contents

【広報部からのお知らせ】

掲載内容について

会員の皆様へ：広報誌への掲載希望、要望についてご意見をお聞かせください。

広報部 e-mail: kouhoumie@gmail.com

【巻頭言】

第31回三重県作業療法学会開催について

第31回 三重県作業療法学会 学会長 青木佑介

【知人 de リンク】

医療法人 桜木記念病院 三浦有紀

社会福祉法人あけあい会 介護老人保健施設みやがわ 山本雄太

【施設紹介】

介護老人保健施設 聖十字ハイツ 今村祐子

【学会参加報告】

[第19回東海北陸作業療法学会の報告]

初めての演題発表を経験して／藤田医科大学七栗記念病院 竹本晴美

東海北陸作業療法学会の雑感／藤田医科大学七栗記念病院 中川裕規

【イベント・研修会参加報告】

救急・健康フェア 2019 に参加して／主体会病院 伊藤航平

グリル四日市 一足早いクリスマスパーティに参加して／主体会病院 大石野乃花

伊勢市「脳卒中・認知症 市民公開講座」の講師を担当して／伊勢慶友病院 成川峰子

「東海北陸リーダー養成研修会 in 石川」に参加して／ヨナハ総合病院 服部智史

【各部局、委員、ブロックの活動報告】

運転と作業療法委員会の活動報告／運転と作業療法委員会 宮坂裕之

組織部の活動報告／介護老人保健施設 やまゆりの里 大西里奈

事業部の活動報告一般公開講座に参加して／介護老人保健施設 やまゆりの里 大西里奈

教育部の活動報告／教育部 富中真悟

【田中会長の活動報告】

第14回みえ福祉用具アイデアコンクール 2019 表彰式に参加して

【県士会からのお知らせ】

教育部からのお知らせ

第21回 東海北陸作業療法学会開催のお知らせ

【勉強会 / 研修会のお知らせの掲載について】

勉強会、研修会の詳しい内容は、三重県作業療法士会ホームページをご覧ください。 <http://mieot.com/info-cat/study/>

【賛助会員のご紹介】

日本モッキ 〒516-0008 伊勢市船江3丁目17-19 TEL.0596-65-6039

株式会社システムネットワーク 〒530-0051 大阪府大阪市北区太融寺町2-18 9F TEL. 06-6364-0529

【求人情報】

求人情報の詳しい内容は、三重県作業療法士会ホームページをご覧ください。 <http://mieot.com/info-cat/job/>

【編集後記】

第31回三重県作業療法学会開催について

Topics



第31回三重県作業療法学会 学会長
松阪中央総合病院 青木佑介

来る令和2(2020)年3月8日(日)、今までとは場所を変更し、三重大学にて開催致します。今回の学会テーマは「生活を支えるEBOT(Evidence-Based Occupational Therapy)とNBOT(Narrative-Based Occupational Therapy)の実践」としました。EBOT、NBOTは作業療法(OT)と根拠に基づく医療(EBM)、物語と対話に基づく医療(NBM)を組み合わせた造語です。

EBMとは疫学的に研究、証明された科学的根拠を重視した上で専門家の医学的知識・経験を中心に提供し、クライアントに適した医療を行うという考え方です。またNBMとはクライアントと対話し、病気や障害の経緯やそれに対する思いなどの物語から、個人の背景や人間関係を理解し、抱えている問題に対して全人的(身体的、精神・心理的、社会的)にアプローチしていく考え方です。

昨今、EBMを実践することは当たり前となってきていますが、その人らしさを追求するようなNBMの視点を持った上で、医療(福祉)が展開されることが最も重要と考えます。EBMとNBMは対立するものではなく、互いに補完し合うものであり、より満足度が高い『クライアント中心の作業療法』を実施するには両者の視点は不可欠なものと言えます。臨床では、CI療法、促通反復療法、人間作業モデルやカナダモデル(CMOP-E)など沢山の治療や理論がみられますが、我々作業療法士は一つのものに固執せず、それらを幅広く学び、個々に応じ使い分ける必要があると思います。また、クライアントの健康や幸福を促進するためにEBOT、NBOTのどちらに偏ることなく、両者を実践することが最善の対応となるのではないかと思います。

今回の学会では、三重県言語聴覚士会と共催で実施し、相互に聴講できるよう特別講演、一般演題、企業展を企画しました。特別講演では大分県作業療法士会の加藤貴志先生をお招きし、「作業療法士による自動車運転支援～研究の進歩と臨床実践～」というテーマで、講演を頂きます。毎日のように高齢者の自動車事故がニュースで報道され、三重県作業療法士会でも公安委員会や三重県指定教習所協会との取り組みが始まったばかりです。加藤先生はこの分野の高名な研究者で自動車運転支援のスペシャリストです。自動車運転に関わる高次脳機能からEBOTやNBOTの実践に関するお話を頂けるとと思います。言語聴覚士会の特別講演は、浜松市リハビリテーション病院の金沢英哲先生で「医師からみたりハビリ職への提言～嚥下障害編～」というテーマで摂食嚥下障害に関するお話を頂きます。2つの講演が聴講できるよう時間も調整しました。

企業展は、14社が集まり、PRをして頂きます。是非とも参加体験し、今後の臨床に生かして頂ければと思っています。一般演題では口演発表に加え、ポスター発表を導入し、企業展と同時進行で行います。多職種の方々参加があり、活発な討論が交わされることを期待しています。

本学会は、令和初めての学会となり、心機一転、新しい学会として生まれ変わります。作業療法学会優秀賞を創設し、学会誌の印刷はしないなど運営に当たり変更したことが多々あります。本学会に関わる書類や宣伝などの情報は、三重県作業療法士会のホームページに学会専用バナーを用意してありますので、ご覧ください(県士会LINE、県士会メールでも広報します)。学会誌に関しては会期が近づきましたら学会ホームページにアップしますので、印刷またはダウンロードして頂き、当日ご持参ください。

学会当日には、参加される皆様と有意義な時間が過ごせますよう実行委員一同全力で準備しています。是非とも会場に足をお運びください。

知人 de LINK

医療法人 桜木記念病院 三浦有紀

前回、医療法人全心会 伊勢慶友病院の松阪徳美さんから紹介いただきました、医療法人 桜木記念病院の三浦有紀です。松阪さんは学生時代の先輩で、在学中は実習のアドバイスをいただいたり、相談に乗っていただくなどたくさんお世話になりました。

私は桜木記念病院で勤務して3年目になります。当院は療養型の病院で、在宅療養支援病院として主に高齢者を対象に医療を提供しています。私は主に介護保険での通所リハを担当しています。通所は短時間で数人の利用者様を同時に担当するため、同じ通所のスタッフと助け合いながら臨床を進めています。最近までは法人内関連施設へ出向いて高齢者へのレクリエーションを週1回行っていました。人前に立つことが苦手な私でしたが、回数を重ねるうちに自信が付き、私自身もレクリエーションを楽しめるようになりました。また、日々様々なレクリエーションを探したり考えたりするのがとても楽しかったです。

院外の活動としては認知症作業療法推進委員会の委員として活動させていただいております。また、地域の認知症キッズサポーター養成講座にも参加させていただき、小学生の子どもたちと劇やクイズを通して包括支援センターの方とともに認知症の啓発活動を行いました。

プライベートでは音楽を聴くことが好きなので好きな歌手のライブへ行ったり、友人と美味しいものを食べに行ったり遊びに行くことが楽しみです。先日は親しい友人の結婚式に参加しました。友人代表でスピーチも担当させてもらえることになり、上手く話せるかドキドキしていましたが、無事にスピーチが終わった後友人がとても喜んでくれて本当に嬉しかったです。

いつも支えてくれる大好きな友人なのでこれからもお相手の方と末永く幸せいっぱい家庭を築いてほしいと思います。

次回は学生時代の後輩である済生会明和病院の中川真

澄さんをお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。



社会福祉法人あけあい会 介護老人保健施設みやがわ
山本雄太

皆様、こんにちは。鈴鹿厚生病院の村田 光さんより紹介を頂きました。社会福祉法人あけあい会、大台町介護老人保健施設みやがわ所属の山本雄太と申します。村田さんとは専門校での級友であり、共に勉学に勤しんでおりました。

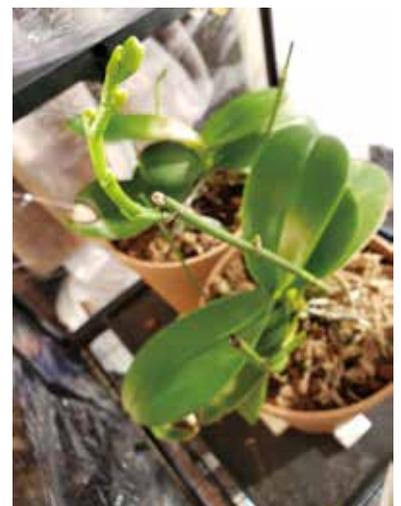
在学中には村田さんの親しみ易さや明るさに幾度助けられたことでしょうか。国家試験に臨む際にも共に努力し、知識を共有できたことはとても有意義であり、現在にも多くの事が生かされています。

現在、私は大台町にある老人保健施設にてデイケアを担当させて頂いています。当施設では地域の他施設と連携が強く、多くの方がリハビリの為に日々いらっしゃっています。リハビリ内容は身体・認知機能のみならず自宅環境や家族関係によっても個々で異なる為、利用者様に合ったリハビリを提供し、目標の獲得などを図っていく事は大変難しい事です。そんな中でも利用者様からの「ありがとう」「良くなったわ」との言葉を頂けた際にはとても嬉しく思います。しかし、私には未だに学ぶことが多く、外部の勉強会や先輩方のご指導ご鞭撻の元、より良い作業療法士になれるよう今後も日々精進していきます。

プライベートでは昔からの趣味であった園芸を続けており、育てている胡蝶蘭から新芽が顔を出してくれました。運動では合気道やランニングに勤しんでいますが、近日は新たな趣味を見つけようと普通二輪の免許取得に力を入れています。

何事にも初めは不安で分からない事が多くありますが、私が見験した事は私だけの宝物であり、視野を広げる良い刺激になっています。これからも興味のあることを積極的に取り組んでいき、見聞を広めていきたいと思っています。

次回は専門校での級友であり、在学中に何度もお世話になった南勢病院に勤務している浅沼慎也さんを紹介させて頂きます。よろしくお願ひ致します。



施設 紹介

介護老人保健施設 聖十字ハイツ



力で職場に向かう、そんな毎日の繰り返しに心身共に行き詰っていました。ある日出勤してみたものの、とても1日働く気力・体力が無く早退してしまいました。翌日後ろめたい気持ちを引きずり出勤した私に、入所者の1人が「あんた、昨日調子悪かったんでね。体操休みで残念やったわ」と声をかけて下さいました。その方は普段訓練参加の様子が積極的でないように見える方だった為、思いがけない嬉しい言葉をかけて頂き、返す言葉が見つかりませんでした。

今村祐子

御在所岳の麓からほど近く、筍や柿の季節には猿の大群が食料調達のため敷地内にやってくることもある、のどかな地域に介護老人保健施設 聖十字ハイツがあります。

当施設の定員は入所（ショートステイ含）100床、通所リハ18名で、現在 OT2名、PT4名（内非常勤2名）と補助スタッフ2名で対応しています。

現在、入所の施設基準が「基本型」、通所リハはリハビリテーションマネジメント「加算I」ですが、入退所前後の訪問指導の実施や他職種との連携の為のシステム作りや時間の確保を行い、施設基準の見直しに取り組んでいます。

施設入所者は、9割が女性、平均年齢は89.6歳、平均要介護度は2.98で、脳血管疾患・骨折や認知症を患っておられる方が多く、入所のきっかけは入院生活後の在宅復帰困難や、家族の介護力や独居生活の限界によるものが大半を占め、「最期はここで看取りを」と希望される方も少なくありません。

作業療法士は主に入所者の生活動作や歩行を中心とした個別機能訓練、認知機能や体力別にグループ分けをした集団活動、居室の環境整備や福祉機器の選定や評価を日々行っています。

私が勤務して10年程経った頃、訓練してもなかなか効果が見出せない現状、訓練内容が定着しないもどかしさを感じ始め、加えて家事や育児との両立、保育園に子供を預け全速

自分の仕事を待って下さる方がいるという安堵感と同時に、毎日同じことを丁寧に繰り返す大切さを知らされた瞬間でもありました。たった数秒のその時の言葉が今日まで仕事を続ける原動力になっています。

業務の効率化や技術の向上等とても大事なことです。それは経験を積み重ねる程により求められ、また期待にこたえていく必要もあります。一方で施設を利用して頂く方々にとって丁寧に寄り添う心がけが如何に大切か、発した言葉がどんな形で活かされるか、意欲にどう影響するか、数字で表せない魅力を実感する事が多々あります。

県士会の皆さんは様々な職場や立場で働かれていることと思います。その職場での魅力を見出して頂けたら、と思っています。



学会参加報告 第19回東海北陸作業療法学会

初めての演題発表を経験して

藤田医科大学七栗記念病院 竹本晴美

2019年11月16日(土)～17日(日)に静岡県浜松市で開催されました、第19回東海北陸作業療法学会にて演題発表をさせて頂きました。初めての発表ということもあり、多くの点で迷うことがありましたが、職場の方にアドバイスを頂き、無事発表を終えることができました。

実際の発表では、時間をかけて行ってきた研究の成果を、何も知らない聴衆の方へほんの数分間で伝え、理解して頂くことに難しさと重要さを痛感しました。また、人前で発表するということが苦手意識を持っており、本番ではとても緊張してしまいました。しかし、他者の発表を聞くことで、プレゼンテーションの流れや見せ方、伝え方を学ぶことのできた貴重な機会となりました。

この発表を通じて、自分の気づかなかった問題点や自分と

は違う視点からの意見を頂くことができ、プレゼンテーションの質を高めることのできた有意義な機会となりました。

また、発表までの準備段階においても様々な視点からの意見や検討を行うことで多くの知識を得ることができました。発表をして終わりではなく、臨床場面でも患者さんに少しでも還元することができるよう、さらに研究に励んでいきたいと感じました。



東海北陸作業療法学会の雑感

藤田医科大学七栗記念病院 中川裕規

2019年11月16-17日に第19回東海北陸作業療法学会が静岡県浜松市にて開催されました。初日より多くの作業療法士が参加しており、どの会場、どのセッションも多く人で大変活気ある雰囲気がとても印象的でした。また、学会運営スタッフも参加者が困らぬよう、会場等に色々な工夫・配慮がなされており、とても温かみのある学会でした。

私は口述発表の座長を行なわせて頂きましたが、担当セッションは若手の方々の発表が多く、どの研究発表も日頃の臨床成果をまとめ、研究デザインがしっかりした発表でした。私

も、発表者と有意義なディスカッションができ、大変勉強となりました。

東海北陸作業療法学会は、症例報告のみならず、研究計画を練った上で実施された報告もあり、より高いレベルの発表が求められると改めて実感しました。

来年は富山県、そして再来年は、三重県で東海北陸作業療法士学会が開催されます。今学会にて運営・発表において良い刺激を受けましたので、2年後は私も何かしらの形で学会へ携わらせて頂きたいと考えております。

参加報告 リハレンジャー登場



救急・健康フェア 2019 に参加して

主体会病院 伊藤航平

2019年9月15日(日)に鈴鹿市主催のイベントで「救急・健康フェア 2019」が鈴鹿医療科学大学にて開催されました。その中で私たちのブースは「リハビリテーションフェア 2019」として、地域の方へのリハビリテーションに関する啓発活動を目的に、リハビリテーション関連職種の見学やアンケート、リハビリテーションに関する知識の伝達を行いました。

全体のイベント内容としては、医師による健康相談や血圧

測定、また消防隊員による救急に関する人形劇など、老若男女楽しめる活動を各ブースにて実施していました。リハビリテーション部門では、理学療法ブースでは運動機能測定、言語聴覚療法ブースでは脳トレ体験、作業療法ブースでは吹き矢体験を行いました。

私は作業療法ブースで、受付やパンフレットの配布、リハレンジャーとして吹き矢体験に参加させていただきました。参加者は、受付にて「作業療法」について簡単なアンケートに答えていただき、その後、実際に吹き矢を体験していただき



ました。今年度は来場者221名と多くの方に参加していただきました。アンケートに回答して頂いた107組の中では「作業療法を知っているか」という設問に対して「知っている」と回答したのは62組、「知らない」と回答したのは45組という結果になりました。また、「作業療法が何をするのか」という設問に対して「知っている」と回答した方が23組、少し知っているという方が31組、「知らない」と回答した方が53組という結果になりました。今回のアンケートから約半数の方に「作業療法を知っている」と答えて頂きましたが、作業療法の役割の認知度の低さを再確認しました。

吹き矢は老若男女が平等に楽しめるレクリエーションであり、子供がマトに当てて喜ぶ姿や、大人が高得点を

狙う真剣な姿など、十人十色の楽しむ様子を見て、今回のイベントのような啓発活動を重ね、レクリエーションを通じてさらに作業療法を知っていただく機会を設けていくことが重要だと感じました。

リハレンジャーとして活動してみて、リハレンジャーの姿を見て喜ぶ姿や握手、ハイタッチをしてくれる子供達を見て、自分自身もとても楽しく活動することが出来ました。リハレンジャーを通して多くの方に作業療法について知って頂けたと思います。今後も、是非参加させて頂きたいです。

最後になりましたが、イベントに参加されたスタッフの皆様、運営の皆様、本当にありがとうございました。



グリル四日市 一足早いクリスマスパーティーに参加して

主体会病院 大石野乃花

「一足早いクリスマスパーティー」が、2019年12月4日(水)、四日市文化会館の「グリル四日市」にて開催されました。三重県作業療法士会として、社会貢献や啓発活動の一環として参加させていただきました。このパーティーは、「全日本司厨士協会三重県本部四日市支部」によって毎年1回開催されているもので、四日市地区の障がい者施設の利用者を招待し、コース料理が振る舞われています。リハレンジャーとしても2012年より毎年参加しているイベントで、本年度で8回目になります。今年は「小山田苑」の方々のご家族様、職員の方、約35名の方が招待されていました。

本年度はリハレンジャーのレッドとピンクがウェ이터として、料理を運んだりしました。参加者の方々は、リハレンジャーの姿を見て笑顔で手を振ってくださり、楽しんでおられました。最後には施設の方より、リハレンジャーに対して感謝状を頂くこともでき、本当に素敵なクリスマス会で、三重県作業療法士会としても社会貢献につながったことを嬉しく思います。

このような地域の活動に参加することで、参加者の方と楽しみながら作業療法士という仕事について多くの人を知っていただくきっかけになると共に、社会貢献につながればと思



ます。また、県士会員の皆様のご参加をお待ちしております。最後になりましたが、今回参加したスタッフの皆様、ありがとうございました。

【協会・士会主催会議、研修の参加報告 1】

伊勢市「脳卒中・認知症 市民公開講座」の講師を担当して

伊勢慶友病院 成川峰子



2019年11月10日(日)に伊勢市ハートプラザみそのにて、第12回伊勢地区医師会主催「脳卒中・認知症 市民公開講座」が開催され、「“その人らしく”に寄り添う」というテーマでお話をする機会をいただきました。

参加者は約200名程度で医療職の方をはじめ、患者様や

ご家族様、民生委員の方の参加もありました。

講演内容は、日常生活のわかりやすい場面を例に、評価の視点や解決策のポイントを説明しながら、作業療法の介入を紹介しました。病気による不自由があってもその人らしく生きていくために“支援者”として、サポートすることが作業療法の役割であることを伝えました。

また、今は必要がなくても、困った時に「そうだ！作業療法士さんに相談したら何かいいアドバイスをくれるかもしれない」と思い出してくれたら嬉しく思います。

作業療法の他にも、理学療法士からは「脳と運動についてのお話」、言語聴覚士からは「ことばと飲み込みについてのお話」があり、講演以外にもブースを設置し、自助具の展示を行いました。

今回の講演を通じて、“作業療法ってなんだろう。どのように説明したら私たちの仕事は伝わるのだろうか”と自問自答を繰り返しましたが、『作業療法』について考えるいい機会となりました。作業療法士を知ってもらう啓蒙活動は今後も非常に重要だと感じました。私も少しでも地域で何か残せていけたらと思います。

「東海北陸リーダー養成研修会 in 石川」に参加して

ヨナハ総合病院 服部智史

2019年11月30日、12月1日に、石川県作業療法士会主催の、東海北陸リーダー養成研修会に参加させていただきました。

この研修会は東海北陸の7県士会が持ち回りで主催をしているもので、次世代のリーダーを育成していくための研修会です。今回のメインテーマは、各職場における中堅スタッフ(後継リーダー)育成の取り組みと課題というものでした。内容としては、臨床実習や日々の業務の中で、学生や後輩を育成していくうえで、どのように実践し、試行錯誤しているか、アイデアの出し合いや課題の共有を、主にグループワークを通して行われました。他県のOTと話すの良い機会であり、様々な取り組み、情報を得ることができました。

また、特別講演は石川県作業療法士会顧問 青山彩光苑の認定作業療法士 今寺忠造先生でした。今寺先生の、これまでの経験を踏まえた上で、厳しい現状にどう立ち向かうか、管理者(リーダー)として、これからを担うものとして、今何が必要とされているかを、時に厳しく、時にユーモラスにお話をさせていただきました。その中の一つとして、挨拶の「重要性」について語られていました。自分から先に気持ちよく挨拶をす

ることで、コミュニケーションを円滑に、相談事もスムーズにできると言われていたのが印象的でした。

また、この研修会の特徴として、「夜の部もメイン」というものがあります。いろいろな先生方と、楽しく真剣に話しながら、ご当地の名物をいただくことができました。



【各部会、委員、ブロックのイベント報告 1】

運転と作業療法委員会の活動報告

運転と作業療法委員会 委員長 宮坂裕之

2019年10月2日、三重県運転免許センターにて一般社団法人三重県指定自動車教習所協会（三重指定協）に所属する教習指導員34名に対して「高次脳機能障害」について研修会を開催しました。講師は藤田医科大学七栗記念病院の渡邊 誠氏（作業療法士）で、約2時間、臨床で見られる高次脳機能障害をわかりやすく解説していただきました。

全日本指定自動車教習所協会連合会（全指連）においても高次脳機能障害は注目されており、今年の4月には「高次脳機能障害を有する運転免許保有者の運転再開に関する調査報告書」が公開され、運転と作業療法委員会委員長の藤田佳男氏をはじめ複数の作業療法士が調査に関わっています。

講義では教習指導員の方が熱心に聴講し、三重指定協会長の櫛田浩哉氏からは、全国レベルでは、高齢者の運転技

能の判定が喫緊の課題であり、その中でも認知一判断一操作の一連のプロセスの中で、最初の認知レベルを理解するために、今回の高次脳機能障害を知ることは有意義であり、高齢者講習でも今回の講義内容は十分に生かすことができるとコメントをいただきました。

一方、作業療法士は、各施設で運転支援に関わっておりますが、教習指導員の方が一般および高齢者講習の際にどのような視点で評価しているのかわからないことが多いと思います。

我々、作業療法士は教習指導員の評価ポイントを知ること、臨床における運転支援の幅が広がると思います。今後も三重指定協の方と連携を取りながら、活動を継続していきたいです。



運転と作業療法委員会 都道府県士会協力者会議

小山田記念温泉病院 杉山祐基

2020年1月11日（土）に大阪医療福祉専門学校にて運転と作業療法委員会協力者会議が行われ、三重県作業療法士会代表として参加しました。東海、北陸、近畿、中国、四国地方から2府15県が参加し、各府県の運転支援に関する実態を聞いてきました。

この会議は2017年に一度開催され今回で2回目となります。第1回開催のときと比べると運転支援をしている病院施設が増えている印象を受けました。しかし活動方法がわからない、指定自動車教習所協会や免許センターとの連携をどうしたらよいかなど、どの地域も共通した問題を抱いていました。

また三重県の運転支援に関する現状も報告させていた

きました。県内で運転支援を行っている施設は9施設（運転と作業療法特設委員の全国調査：2019年9月）で、その中でドライブシミュレーターは4施設が保有、実車評価は4施設が実施しております。前回結果（2017年度）より増加傾向ですが、他府県と比べ三重は遅れているなど改めて実感しました。

昨年度より本田技研様や指定自動車教習所協会と意見交換や合同研修会を開催して連携を図っています。今後も三重県の運転支援発展のためにも他団体と協力して活動を広げていけたらと思います。またそのためにも自分自身が運転支援に関する知識がまだ浅いため日々勉強して少しでも貢献できればと思っております。



組織部の活動報告

介護老人保健施設 やまゆりの里 大西里奈

2019年9月28日（土）に三重県立こころの医療センターにて組織部主催の「リーダー養成研修会」に参加させて頂きました。

改めて作業療法士として、今後も色々な活動へ参加し、少しでも作業療法の普及の協力ができれば良いと感じました。

私は作業療法士になって6年目と経験が浅く、三重県士会についての歴史や詳しい現状、課題を殆ど知りませんでした。しかし今回の研修会でわかりやすく説明して頂き、このような内容をもっと同世代が知るべきだと感じました。各個人が県士会についての歴史や現状を理解して地域へ作業療法を広げていければ良いと思いました。

また、今回の参加者には先輩療法士が多く、はじめは緊張しましたが、子育てと仕事の両立の大変さや工夫など、普段働いている中でなかなか聞けない話を聞くことができ、将来の勉強にもなりました。

このような研修会での交流が増え、横の繋がりができると心強いと感じました。自分にとって、とても充実した研修会になったので良かったです。



〔各部会、委員、ブロックのイベント報告 2〕

事業部の活動報告

介護老人保健施設 やまゆりの里 大西里奈

今回、「いつまでも運転が続けられるように日々の暮らしでできること〜」というテーマで、事業部主催の一般公開講座が2019年12月8日(日)に名張市役所にて開催されました。私は、事業部員として参加させて頂きました。一般市民64名の参加者が集まり、「高齢者の自動車運転」というテーマは、現在とても注目がある内容だと改めて感じました。

現在、私は老健に勤務しており、実際に現在も自動車運転を行っている方がみえます。担当利用者様の中には、近所の病院やスーパーまで車で行かないと不便だという方や畑までなら車の台数も少ないため運転しているが、それ以外は息子夫婦に運転してもらおうよう頼んでいるという方がみえます。このように、自分自身の現在の状態を理解して頂き、今後も運転を続けられるよう私も支援していきたいと思いました。

また、今回の名張警察署交通課の担当者の講話後の質疑応答では、時間が足りないくらい活発な質問やご意見があり、このような講演会が色々な場所で開催され、安全に安心して暮らせる街づくりに協力できれば良いと感じました。



厚生労働省指定臨床実習指導者講習会（三重県士会講習会）報告

教育部 富中真悟

2019年10月26・27日に鈴鹿医療科学大学、12月14・15日に松阪中央総合病院にて臨床実習指導者講習会を2回開催することができました。

両会場合わせて180名の受講者が修了証を受け取ることができました。

開催にあたって戸惑いや不安がありましたが高んとか2019年度やりきることができました。受講された方のご協力もあり滞りなく講習会を終了できました。

講習会では演習の時間がプログラムされています。活気あふれるグループ演習の時間は将来有望な作業療法士を育成するために良い時間だったと感じました。

16時間のハードなスケジュールで受講された先生方はご苦労されたと思います。

次年度も2会場での開催を考えています。受講をお考えの三重県士会員の方は県士会ホームページの掲示にご注目ください。



〔田中会長の活動報告〕

第14回みえ福祉用具アイデアコンクール 2019 表彰式に参加して

一般社団法人三重県作業療法士会 会長 田中一彦

2019年11月22日(金)、三重県身体障害者総合福祉センターにて第14回みえ福祉用具アイデアコンクール 2019 が開催され、受賞者への表彰式に出席しました。

このコンクールは「こんな福祉用具があったらいいな」「日頃使っている福祉用具をこんなふう改良したらいいな」など様々な生活場面で活用できるアイデアを募集するもので、今年度は全国から230件の応募がありました。

当士会からは佐藤副会長が審査委員として参加し、5名の審査委員による審査の結果、最優秀賞1点、優秀賞2点、日本福祉用具供給協会三重県ブロック賞1点、三重テレビ放送賞1点、伊勢新聞社賞1点、一般社団法人三重県作業療法士会賞1点が選ばれました。

三重県作業療法士会賞は、奈良県在住の椋原幾子様作品「BIG リボンスタイ とにかくカワイイ」が受賞されました。

この作品は、ご自身の娘さんのために作製されたもので、成人女性向けにおしゃれなデザインかつ機能的なスタイとなっています。

他の作品では、既に試作された実用性の高いものや実際の生活場面で



活用したくなる学生さんのアイデアなど質の高いものが多くみられました。

詳しくは、以下の URL をご参照ください。受賞作品のイラスト、受賞者が掲載されています。

<http://www.ztv.ne.jp/mie-tech/>

また、同日、同会場では「みえ福祉用具フォーラム 2019」も開催されており、多くの企業による福祉用具・自助具の展示及び福祉用具体験や特別講演、セミナーなどが聴講できます。

最新の福祉用具の情報交換、勉強ができる貴重な機会です。皆様、来年度は、アイデアコンクールの応募およびフォーラムの参加をご検討ください。



県士会からのお知らせ | 1

生涯教育手帳電子化に伴う重要なお知らせ

教育部 生涯教育推進担当 福井麻貴

2020年度、生涯教育手帳は電子化されます。現職者研修や認定作業療法士取得研修などの研修受講履歴、ポイントシールとして発行していた各種ポイントなどは、**2020年度以降はすべて会員ポータルサイト内での管理**となります。

生涯教育手帳の移行手続きは会員のみなさんが個人で行う必要があります。手帳移行の手続き期間は、**2020年4月1日～2021年3月31日**。

移行手続きは、原則1回のみです。この期間内に必ず個人で移行手続きを行って下さい。

また、今年度まで発行されていたポイントシールは発行されなくなり、基礎ポイントはすべて会員ポータルサイトでの管理となります。それに伴い、手帳移行手続きを行うまでに**ポイントシールの整理**を必ず行って下さい。

- ・未貼付のポイントシールの貼付
 - ・貼付にあたり、日付、内容の記載徹底
 - ・未申請のポイントシールの申請
- *未申請のものは三重県作業療法士会教育部担当者へ申請依頼をして下さい。

具体的な方法は、県士会 HP、LINE 等でご案内いたします。ポイントシールは、**未貼付のものや未申請のものが出てきたとしても手帳手続き後には認められません**ので、手帳移行手続きまでに必ず整理してください。

手帳移行手続きに関する案内は、日本作業療法士協会ホームページや協会誌、および三重県作業療法士会ホームページ等でも随時発信いたしますので、みなさんご確認の上忘れないように手続きをお願いいたします

県士会からののお知らせ | 2

第21回東海北陸作業療法学会開催のお知らせ

第21回東海北陸作業療法学会 学会長 田中一彦

東海北陸地区7県の作業療法士会による学会が、2021年11月13日(土)～14日(日)に三重県四日市市で開催されます。

当学会は東海北陸地区作業療法士会が持ち回りで開催されており、7年に1回、三重県では3回目の開催となります。

2019年度は、静岡県で11月16日～17日に開催され、2020年度は富山県で11月7日～8日に開催される予定です。

東海北陸7県の作業療法士が一堂に会し学術研鑽を通じ交流できる貴重な機会となっています。皆様の自己研鑽

の場として情報交換の場として大いに活用していただくとともに、作業療法士の活動を多くの県民、多職種の方に知っていただける啓発の場としていきたいと思っております。

2年度後の学会開催に向けて学会準備委員会は活動を始めました。会員の皆様には学会発表に向けて準備をしていただきたいと思います。

積極的な学会参加と東海北陸地区の作業療法士会の皆様をお迎えする実行委員としての参加協力も合わせてお願いしたいと思います。

[勉強会 / 研修会のお知らせの掲載について]

勉強会、研修会の詳しい内容は、三重県作業療法士会ホームページをご覧ください。

<http://mieot.com/info-cat/study/>

[賛助会員のご紹介]

日本モッキ

〒516-0008 伊勢市船江3丁目17-19 TEL.0596-65-6039

株式会社システムネットワーク

〒530-0051 大阪府大阪市北区太融寺町2-18 9F TEL. 06-6364-0529

[編集後記]

昨年、田中会長経由で、静岡県の広報部長の方と情報交換をすることができました。実は他の県士会の広報担当からもメールをもらうこともあるんです。情報交換の内容は、広報誌の記事に関することが多いですが、興味を持ってもらうことが多いのは電子媒体化に関することです。他の県士会でも電子化を考えているみたいです。

静岡県との情報交換の中で、県学会でアンケート調査をしていることがわかりました。確かに学会参加時に学会の内容について満足度調査が行われることがあります。早速、青木学会長に相談し、3月の学会でアンケートを行うように検討しています。やはり、会員の意見を聞いて、より良い活動につなげることは、OTのレベルアップにつながると思います。ぜひ、アンケートにご協力ください！

(編集：宮坂裕之、部局員：伊藤篤史、渡邊 誠、岡田拓朗)

発行所

〒514-1296
三重県津市大鳥町424-1
藤田医科大学七栗記念病院内
一般社団法人三重県作業療法士会 広報部
発行責任者：田中一彦

事務局

〒512-1111 三重県四日市市山田町5538-1
小山田記念温泉病院 リハビリテーションセンター内
一般社団法人三重県作業療法士会 事務局
TEL: 059-328-1260
FAX: 059-337-9511
e-mail: mieotjim@yahoo.co.jp